

EN (絶滅危惧 I B 類)

カメ目 ウミガメ科

カテゴリー判定基準：A-2

アカウミガメ

Caretta caretta (Linnaeus, 1758)

英名：Loggerhead turtle

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1997	2006
R	VU	EN

アカウミガメの北太平洋個体群は北太平洋の温暖域に広く分布する。産卵地は千葉県から南西諸島の日本に限られている。上陸産卵回数は1997年まで減少したが、その後は増加している。2012年には25,947回の上陸が記録されており、日本で産卵するメスは10,000個体前後と推察されている。本種は日本でふ化したのち、太平洋に分散して成長する。甲長が60cmを超えると、日本近海に回帰する。脅威は沿岸域における混獲と砂浜の侵食である。

The North Pacific Ocean population of loggerhead turtles is widely distributed in the temperate waters of the North Pacific Ocean. Distribution of nesting sites is limited to the Nansei Islands from Chiba Prefecture. The number of nesting sites has decreased until 1997. Because 25947 emergence have been recorded from all Japanese beaches in 2012, we have estimated that the numbers of nesting females are about 10000. Hatchlings are distributed throughout the North Pacific Ocean and develop there. Then, when their carapace length reaches 60cm, the turtles return to Japanese waters. The major threats are bycatch and erosion of nesting beaches.

基礎情報

■**形態** 甲羅の形はハート形をしており、背甲にはカメフジツボやワレカラ類などが藻類とともに生息していることが多い。成体の背面は褐色、腹面は淡黄色で、ふ化幼体は全身が黒褐色である。相対的に頭部が大きく、顎も頑強である。直甲長は産卵に上陸するメスで70～100cm、また、太平洋沿岸を回遊する集団で65～90cmである。

■**分布域** インド～太平洋、大西洋、地中海の温帯海域に分布しており、主要な産卵地も南日本以外にオーストラリアの北東岸、オマーン、南アフリカ、ギリシャ、アメリカ合衆国南東岸、ブラジルなどにある。南日本でふ化した幼体は、黒潮に流され北太平洋に広く分散する。幼体の多くは、カリフォルニア半島沖で成長した後日本近海まで回遊してくる。従って、日本産のアカウミガメの分布は北太平洋の温帯域を中心に広い範囲にある。

■**生息環境** 本種は動物食性なので熱帯よりも餌の豊富な水温15度以上の温帯海域を好む。ふ化幼体は外洋で漂流生活を行い、流れ藻に隠れて生活・成長する。また、未成熟個体はカリフォルニア半島沖の湧昇流海域のように栄養塩が豊富で、餌となる動物が多い海域に集中して分布する。成体は底生動物を食べることから、水深300m以浅の東シナ海も重要な索餌海域である。

■**生活史** 産卵は5～8月にかけて南日本の太平洋岸で行われる。卵は一度に100～120個産下され、メスはシーズン内に複数回産卵する。卵は50～70日でふ化し、幼体は夜間に脱出し海に入り、黒潮に流されて太平洋の広い範囲に分散する。その間、浮遊性の動物を摂食して成長する。ふ化後、15～20年ほど経過すると、再び日本近海に回帰し、成熟に至る。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 太平洋の温帯域を中心に広く分布する。これらの海域では漁業が盛んに行われており、本種も混獲されている。瀬戸内海な

どの浅海域は摂餌場所であったと予想されるが、漁業活動等により分布域ではなくなった。また、大阪府堺市から泉南市にかけて、兵庫県神戸市須磨区から垂水区にかけて、別府湾の砂浜は、産卵地であったが現在では埋め立てられ、繁殖地としての機能を失った。

■生息地の現況 関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸や南西諸島の砂浜で産卵するが、その多くの海岸で侵食が懸念されている。とくに深刻なのは宮崎県の海岸で、大淀川河口から北に向かって産卵のための環境は劣化している。このような産卵地の劣化は、全国的に深刻である。また、定置網など沿岸漁業による混獲死も報告されている。

■個体数の現況 南九州の砂浜では、1990～97年まで上陸・産卵回数が顕著に減少したが、その後、増加に転じ、現在では1990年頃よりも増加している。四国地方、紀伊半島、東海地方の海岸では、1990～97年にかけての減少傾向は同じだが、その後の回復度合いが南九州よりも低い。とくに、四国地方の蒲生田海岸と日和佐大浜海岸は復活の兆しがない。

存続を脅かす要因

存続を脅かすもっとも重要な要因は漁業による溺死である(71)。毎年、日本の海岸線では200個体程度のアカウミガメの死体が打ち上がるが、その多くが漁業による溺死と考えられる。とくに、定置網はその形状によっては多くのウミガメを溺死させる。また、高知県や和歌山県ではアカウミガメを食す文化がある(41)。産卵場となる砂浜海岸からの砂の消失も深刻である。産卵海岸のほとんどで人工構造物に起因する砂の流出が見られ(14)、繁殖地としての機

能を失った砂浜が増加している。また、むやみな卵移植や子ガメの放流会も脅威となっている(71)。

保護対策の現状

全国各地の産卵海岸において、個体の保護と卵の採取の規制が条例などによって行われており、静岡県御前崎市および徳島県海部郡美波町の産卵地は国指定の天然記念物に指定されている。また、市民による保護活動も活発に行われ、上陸・産卵回数モニタリングは国際的に評価されている。

特記事項

アメリカ合衆国のESA (Endangered Species Act) において、アカウミガメの北部太平洋個体群はEndangeredと位置づけられている。

参考文献

- Hatase, H., 2003. Migrations and habitat use of sea turtles. *Zool. Sci.*, 20(12): 1524.
- Ishihara, T., N. Kamezaki, Y. Matsuzawa, F. Iwamoto, T. Oshika, Y. Miyagata, C. Ebisui and S. Yamashita, 2011. Reentry of juvenile and subadult loggerhead turtles into natal waters of Japan. *Curr. Herpetol.*, 30(1): 63-68.
- 亀崎直樹, 2003. ウミガメからみた沿岸域, 特に砂浜と海岸の現状と未来. 沿岸域, 16(1): 45-53.
- 亀崎直樹, 2010a. 海洋におけるウミガメ保護. 野生動物保護学会(編), 野生動物保護の事典, pp. 197-200. 朝倉書店, 東京.
- 亀崎直樹, 2010b. ウミガメの産卵場としての砂浜の保全. 野生動物保護学会(編), 野生動物保護の事典, pp. 192-196. 朝倉書店, 東京.
- 亀崎直樹(監), 2012. ウミガメの自然誌:産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会, 東京. 301pp.
- Kamezaki, N., Y. Matsuzawa, O. Abe, H. Asakawa, T. Fujii, K. Goto, S. Hagino, M. Hayami, M. Ishii, T. Iwamoto, T. Kamata, H. Kato, J. Kodama, Y. Kondo, I. Miyawaki, K. Mizobuchi, Y. Nakamura, Y. Nakashima, H. Naruse, K. Omuta, M. Samejima, H. Suganuma, H. Takeshita, T. Tanaka, T. Toji, M. Uematsu, A. Yamamoto, T. Yamato and I. Wakabayashi, 2003. Loggerhead Turtles Nesting in Japan. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.) *Loggerhead Sea Turtles*. pp. 210-217. Smithsonian Books, Washington, D.C.

執筆: 亀崎直樹 (岡山理科大学生物地球学部/神戸市立須磨海浜水族園)